

## 乳がんって、どんな病気？

最近、テレビや新聞でも頻繁に乳がんについての話を聞いたり見たりするようになりました。その背景には、乳がんがいまや日本人女性において最も罹患率が高い癌であり、その罹患率・死亡率ともに上昇傾向であるという現実があります。

乳がんは20歳代でも発症を認め、30歳代になるとその罹患率は急激に増えます。日本人の場合は40歳代半ばから50歳代前半に乳がん罹患率のピークを認め、その後は徐々に低下しますが、85歳以上の方でも乳がんの発症を認めます。乳がんは早期に発見すれば根治を望める確率の高い疾患ですので、どの年代の方も定期的な検診を受けることが大切です。

年齢以外でも乳がんにかかりやすい因子としては次のようなことが挙げられます。

乳がんと言っても実は色々な種類がありますが、約7割は女性ホルモンであるエストロゲンを栄養として増殖するタイプとされています。従って、エストロゲンの分泌されている期間が長い人ほど乳がんを発症する可能性が高いとされています。また、エストロゲン以外にも乳がん発症リスク因子とされるものがあります。

エストロゲンの分泌期間と関連する因子	その他の因子
<input type="checkbox"/> 初潮が早い	<input type="checkbox"/> 家族歴がある（乳癌・卵巣癌・膵癌・胃癌）
<input type="checkbox"/> 閉経が遅い	<input type="checkbox"/> （閉経後の方で）肥満
<input type="checkbox"/> 初産が遅い	<input type="checkbox"/> 毎日飲酒の習慣（ビール中グラス1杯程度）
<input type="checkbox"/> 出産回数が少ない	<input type="checkbox"/> 喫煙習慣
<input type="checkbox"/> 出産歴がない	<input type="checkbox"/> 良性乳腺疾患の既往
	<input type="checkbox"/> 日常生活の運動量が少ない など

★これらに該当しなくても乳がんになる可能性はあるので、検診を受けることが大切です。

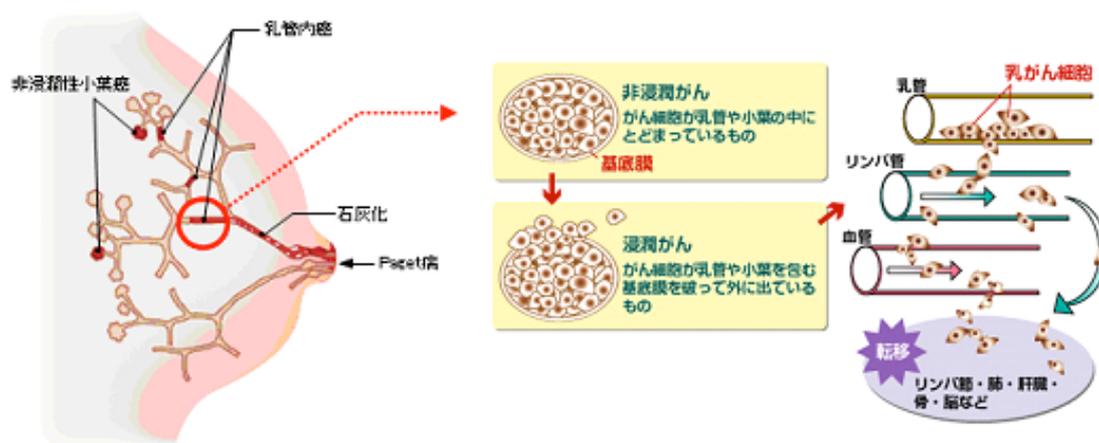
では、具体的に乳がんとはどんな病気なのでしょうか。乳がんとは、乳腺（乳管や小葉など）にできる悪性腫瘍のことです。

乳がんには乳管がんと小葉がんがあります。乳がんの9割が乳管がんですが、これは乳汁を運ぶ管である乳管の細胞から発生します。母乳を作る器官である小葉の細胞から発生するのが小葉がんです。

『非浸潤がん』とは、がんが乳管や小葉の中にとどまっているものです。理論的には、転移を起こさない段階のものということになります。頻度は、発見される乳がんの1～

2割程度ですが、近年の検診マンモグラフィの普及による早期発見により、増加傾向にあります。

『浸潤がん』とは、がんが乳管や小葉の中にとどまらず、近傍の組織に浸潤したり、血管・リンパ管から全身に移行するものです。つまり、転移などを起こす可能性のある病期ということになります。



乳がんの転移のしかたは、大きくリンパ行性転移と血行性転移に分けられます。リンパ行性転移とは、がん細胞が原発巣近くのリンパ管に入りリンパ液の流れによって腋窩や鎖骨上のリンパなどに転移をきたすことです。一方、血行性転移とはがん細胞が血管に入り血液の流れによって肺、肝臓、骨、脳などの遠隔臓器に転移することをいいます。